

AOKI、スーツをシューズにリサイクル

AOKI（横浜市）は11月7日、下取りで回収したスーツや礼服をリサイクルした「ウールエコシューズ」を発売した。アップー素材の原料に、AOKI店舗で回収した製品のウールやポリエステルを使用し、透湿防水フィルムや空気循環ソールを採用するなど、実用性も追求している。色は原材料の関係で黒一色だ。

AOKIは、1996年に日本で初めて不要衣類を回収する「AOKI ウール・エコ・サイクル®」プロジェクトを、東亜紡織とスタート。そして今回、30年近い取り組み

ウールエコシューズ



黒いスーツと礼服のリサイクル素材を使用

の末に「商品」という形に生まれ変わらせることに成功した。

（CSR48・美紀子
ウィディアント）

「PRIDE指標2023」834社が認定

企業や団体、自治体のLGBTQ+の取り組みを評価するPRIDE指標の表彰が11月7日、経団連会館で行われた。8回目を迎えた今年は総計834社がゴールド、シルバー、ブロンズ、レインボーに認定された。

東京都は、同性でも可能なパートナーシップ宣誓制度を開始。パートナーシップ関係にある二人から宣誓・届出を都が受理し、証明書を交付する。交付組数は968組（2023年10月31日時点）となっている。



「ゴールド」の認定は705社に

企業や組織の面でも、個人の面でも多様性（ダイバーシティ）やLGBTQ+の取り組みがますます進んでいきそうだ。

（CSR48・前田京子）



CSR48

presents

CSRTピックス 35

女性のCSR担当者を中心に結成された「CSR48」がCSRの最新事例を紹介します。

障がい者がさまざまな職種で活躍

東京都は、障がい者雇用について特色ある取り組みを行う企業を「エクセレントカンパニー」として表彰している。2023年度の受賞6社のうちの1社、トランスコスモスは、障がい者採用、業務創出、ハード・ソフト両面の職場環境整備を専門部署が一括で行う。

Webコーダー、デザイナー、映像クリエイターなどのクリエイティブ系が職種の多くを占め、障がい者社



東京都の潮田勉副知事（左）と、トランスコスモスの古原広行執行役員

員のうち8割がプロフィットセンターで活躍する。同社では、個性を発揮し生き生きと働ける共生社会に向け、障がい者雇用を通したソーシャルインパクトの取り組みを進める。

（CSR48・大西香奈恵）

難民支援と企業との関係を考える

SEAMESは10月26日、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）を招いた国内企業×難民支援のイベントを開いた。紛争や迫害、気候危機によって住む場所を追われた難民は、2022年に初めて1億人を超え、これまでで最大になったという。

ウクライナ情勢もあり、昨年は国際社会からの支援額が増加したものの、必要額の半分以上にしかない。イベントでは、難民支援のさまざまなアイディア



ESGの視点から難民支援の重要性を強調

や企業事例を共有した。世界情勢が悪化する中で難民のニーズも変化しており、企業の支援のあり方が問われている。

（CSR48・原理花子）

column

総監督のつばやき

とても身近な存在だった難民

23

CSR48・太田康子

毎年12月になると、私が関わらせてもらっているNPO法人「self」が主催する難民支援のチャリティライブがあります。ゲストによる歌やダンスで会場が一体となって盛り上がる時間もありますが、私はここで、難民の現状を伝えるパートを担当しています。昨年はウクライナ、今年はリビアの洪水、アフガン西部の地震、そしてパレスチナと、胸がふさがりような事態が立て続けに起き、難民は増え続けています。

難民キャンプに長くいた伊藤UNHCR駐日代表によると、難民のニーズは3点あるそうです。1つ目は尊厳が保たれること。2つ目は自分で決めたいということ。3つ目は情報です。難民キャンプに到着してすぐに求められるのは、ス



「self」による難民支援チャリティライブ

マートフォンの充電で、情報が入手できれば、住居や食料を自ら探して手に入れることができるということです。

日本でも終戦時、引き上げてきた人を私の祖父母が家に住ませており、当時は住む家もない人々は難民だったと親戚から聞きました。実はこんなにも身近に難民の存在があり、決して他人事ではないと思い知りました。

チャリティを18年続けている「self」の松田陽子代表は、自身がかつて映画でみた難民の母子の姿に、突き動かされたといいます。地球の裏側の惨状を映像でみている私たちに、一体何ができるのか。それは身近な人と平和を語り、想いを寄せることではないでしょうか。

CSR48とは 「CSR48」は、企業のCSR担当者を中心に「CSRに関心のある女子たち」が集まったグループ。「CSRをもっと身近に」をミッションに、勉強会やイベントを実施する。目指すのはサステナブルな社会と、女性のエンパワーメントによって、利害や立場を超えて、より良い社会に向けたアクションをおこすこと。メンバーの所属は、商社、メーカー、ゼネコン、NPO法人などさまざま。雑誌オルタナの連載の他、イベント登壇や4月はじまりのSDGsカレンダー発売など多彩に活動を広げる。

CSR48のオフィシャルブログ <https://ameblo.jp/csr48>

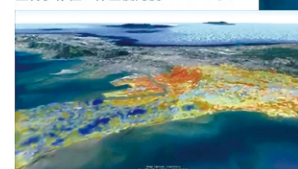
TNFDが本格的にスタート

自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）は9月18日、フレームワークの最終提言「v1.0」を正式公開した。4つの柱からなる開示項目「ガバナンス」、「戦略」、「リスク管理」、「指標と目標」に加え、LEAPアプローチ、シナリオ分析や目標設定の個別ガイダンスからなる。

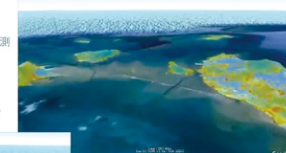
これに合わせて沖縄科学技術大学院大学（OIST）で開かれたネイチャーポジティブ達成に向けたセミナーでは、自然資本のロスからゲインに転換する意義と、地図

生物多様性デジタルツイン
空間解像度：20mスケールで生物種分布を予測
時間解像度：3か月単位で更新が可能

沖縄うるま市
生物多様性の保全優先度スコアマップ



沖縄をモデルに自然資本の可視化について解説



（CSR48・吉田織江）

上で動植物の分布が可視化できる仕組みや企業事例を紹介した。

観光庁が阿蘇の自転車ツアーを表彰

観光庁は10月27日、「サステナブルな旅AWARD」を発表した。大賞の「特別な許可を得て草原体験！ 噴煙を上げる阿蘇中岳火口と『千年の草原』E-MTBライド」（阿蘇温泉観光旅館協同組合）は研修を受けた「牧野ガイド」の案内で、普段は立ち入れない阿蘇カルデラの草原を電動自転車で巡る。

人口減や産業構造の変化などから、家畜の放牧場である牧野は減少が続けているが、ツアー代金の一部を野



阿蘇の自然と電動自転車を観光の振興に

焼きなどの保全活動に還元することで、観光客、地域経済への貢献に環境保全を加えた「三方良し」の循環モデルを創出した。

（CSR48・大井美歩）